



東北森林管理局 森林技術センター

平成20年
春号

たより

〒037-0305
青森県北津軽郡中泊町
大字中里字亀山540-8
TEL 0173-57-2001
FAX 0173-57-4929
E-mail:t_gijyutu@rinya.maff
.go.jp

増川ヒバ施業実験林について

ヒバの天然林施業については、昭和6年に松川恭佐氏によって「森林構成群を基礎とするヒバ天然林の施業法」が示され、現在もこの考え方を基礎として、択伐による天然林施業が行われています。この施業方法を検証するために、昭和6年6月、旧三厩村（現外ヶ浜町）と旧大畑町（現むつ市）にそれぞれ増川・大畑ヒバ施業実験林が設定されました。青森県のヒバ林は藩政時代に津軽藩と南部藩とで取り扱いが異なっていたため、津軽半島ではヒバの一斉林型（写真1）、下北半島では複層林型（写真2）が多いことを昨年秋号でご紹介しました。このため実験林は、この両半島の特徴を持つ林分に設定されました。

戦争による中断（S19-S27）、洞爺丸台風による風倒被害（S29）、戦後の拡大造林政策によるスギへの樹種更改の議論（S34）等、様々な危機を乗り越えながら現在に至っており、設定からおおよそ80年となる貴重なフィールドです。今回は増川実験林についてご紹介します。

増川実験林の面積は約200haで、72haの風衝地を除き、地形などにより10林班に分かれています。さらに設定時に森林構成群（※1）を単位として、各林班を15～31の小班に細分しました。実験林では、健全な林分への誘導を理念とし、各森林構成群の過去から将来にかけての林相（※2）の推移や、密接な関わり合いを持つ各植物間の関係等を観察し、それらになるべく逆らわないような施業を各森林構成群毎に行うことを目指しました。

収穫は毎年1林班ずつ、10年サイクルを基本とし、現在までに各林班で6回程度収穫されています。

更新は特に戦前（S6-S18年）において、ヒバ単純老齢一斉林等を、永続的な収穫を

森林技術専門官 尾上 好男



写真-1 ヒバ単層一斉林（津軽半島）



写真-2 ヒバ・広葉樹複層林（下北半島）

可能とするヒバ複層林にするため、ヒバ苗を樹下植栽するなど、集約的な施業を更新が完了するまで繰り返し実施していたと考えられます。

このように、森林構成群の種類に応じたきめのこまかいヒバの森林づくりを設定当時の実験林では実施していたことが、過去の資料から伺えます。当時の先輩方がヒバ施業実験林で実施してきた造林作業の一部を以下にご紹介します。

・樹下植栽

ヒバや広葉樹の樹下にヒバ苗を植栽し、更新を図る方法で、一定の本数が活着するまで繰り返し行われたと考えられます。写真3のようなヒバ稚樹が林床に見られない一斉林を、択伐により林内を明るくして、樹下植栽を行うことにより、写真4のような複層林を造成してきました。

・枝下ろし

上層木の広葉樹などの枝を除去し、林内を明るくすることにより、稚・幼樹の更新・成長を促進させる方法。また、当時は枝下ろしや灌木の除去で生じた枝条等を薪炭材として利用していました。

(写真-5)

・刈り出し

雑草等を刈り払い、ヒバ稚樹の上方成長を促進する方法で、笹の除去も積極的に実施されていました。さらに、雑草等は必要に応じ、非常に手間のかかる堀り取りまで行っていました。

このように、当時ヒバの更新に多大な労力が注ぎ込まれていました。しかし残念ながら、戦争による中断等で当時の小班の境界や個体識別の標示が分からなくなり、このような施業を実施した林分が、現在どのようなヒバ林になったかを正確に把握することが難しい状況ですが、今後は既存の資料をさらに整理し、かつての集約的施業の効果を検証できればと考えています。

※1 森林構成群：

森林を構成する樹木・草本・苔類等の植物群のこと。実験林では上層の林冠を占める樹種等によりヒバ・広葉樹・ヒバ広葉樹混交林等に分類。

※2 林相：

森林を構成樹種や樹高等の大まかな外観で区別したもの。

<参考・引用文献>

青森営林局(1935) 森林構成群ヲ基礎トスルヒバ天然林の施業法

東北森林管理局(2000) 増川ヒバ施業実験林の今後の整備に関する調査報告書



写真-3 稚樹の見られないヒバ林
(昭和20年代後半)



写真-4 樹下植栽によると思われる
ヒバ2段林



写真-5 造林作業実施後の林内の様子
(大畑実験林、昭和10年頃)



今別町の皆様との交流

～手作りシンポジウム「地域の山林再生と林業の展望について」～

森林ボランティア団体である今別町「十五日会」様主催のシンポジウム「地域の山林再生と林業の展望について」が3月18日に今別町中央公民館で開催されました。今別町の阿部副町長、青森県の横山林務調整監、今主幹、森林組合あおもりの蛭名課長、青森森林管理署の枝澤署長らとともに、当センターよりも所長が参加し「ヒバ林の育成について」と題して、センターの取り組み状況や、技術開発試験の結果について講演させていただきました。

当日は約70名ほどの方々が集まり、会場は満員で熱気でいっぱいでした。



講演する青森県庁の横山林務調整監

東北森林管理局 吉田企画官が来所

東北森林管理局で管内の技術開発を担当する計画部の企画官に4月1日付けで着任した吉田等企画官が先日、森林技術センターを訪れ、中泊町内の試験地などを視察しました。

第一日目の途中、近隣の森林火災を発見し、その対応に追われてしまい、途中の視察を中断せざるをえませんでした。ヒバの施業指標林、複層林試験地、ヒバ天然林の間伐試験地などを回り、現場でいい議論ができました。



吉田企画官（左から2人目）と現地説明する木村係長と尾上専門官

平成19年度森林・林業技術交流発表会

～当センターが森林技術部門奨励賞を受賞～

第19回森林・林業技術交流発表会が2月7日～8日の2日間、秋田市の東北森林管理局で開催されました。

この発表会は、東北地方の各県・市町村、大学、国有林部局による森林や林業に関する研究や業務の成果を発表するもので、毎年この時期に開催されています。中学・高校の部が設けられているのも、この発表会の大きな特徴です。

当センターよりは、尾上専門官と木村係長が参加し、森林技術部門の奨励賞を受賞しました。この賞を励みに今後がんばってまいります。



表彰式の様子

お疲れさまでした。

当センター副所長の吉村正市さん、基幹作業職員の川村勝さん、神正敏さん、神正さんの4名が3月31日付けで定年退職となりました。皆さん、造林や生産の経験が豊富で、森林技術センターの技術開発業務においても、貴重なアドバイスをいただけてまいりました。

今後ともヒバの森林づくりの技術について、経験豊富なみなさんのお知恵をお借りすることもあるかと思えます。そのときはよろしくお願いいたします。



新任者の紹介

副所長 小笠原 孝

(東北森林管理局国有林管理課課長補佐より着任)

このたび、異動で森林技術センターにお世話になることになりました小笠原です。

中里町役場に出向していた頃、当時の所長から今度広報誌を発行することになったので町長へ寄稿をお願いすると言われ、寄稿文の作成のみならず紙面の構成等々発行に向け所長と二人で苦労した思い出があります。

当時と比べ紙面の内容も専門的になり、自分なりに勉強しなければならぬと痛



感しているところです。今後皆様の協力を得ながら頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

業務係 蒔田 薫

(東北森林管理局青森事務所より着任)

4月1日付けで青森事務所から業務係に異動してきました蒔田です。5年4ヶ月前まで、平成7年3月1日の森林技術センター発足以来、当森林技術センターに所属しておりましたので、「戻ってきました」というのが正確な言い方かもしれません。

当時は生産事業や造林事業がウェートを占めていましたが、赴任早々の技術開発課題の説明や試験地を見せていただき、大変



進歩を感じる事ができました。早くなれるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

編集後記

いよいよ春本番。今年は雪解けが早いようで厳しい冬の間、雪に埋もれていた試験地のヒバ苗も幹をまっすぐに立ち上げ、春の日差しを浴びています。待ちに

待った津軽の春です！新任者も向かえ、心機一転、がんばってまいります。

